

平成 26 年度第 1 回北海道立図書館協議会会議概要

日 時：平成 26 年 7 月 17 日（木）14:00～15:40

会 場：北海道立図書館 会議室

出席者：協議会委員 9 名、道立図書館職員 12 名

傍聴者：なし

開会前

6 月 19 日付けで就任した門前委員の紹介（浦田委員の後任）

議事等

1 議題

(1) 平成 25 年度業務実績について

2 その他

会議概要 （○～委員の発言 ・～道立図書館職員の発言）

1 議題

(1) 平成 25 年度業務実績について

金山利用サービス部長説明・・・資料「平成 25 年度北海道立図書館業務実績報告書」

<(1) 市町村支援_ア 市町村立図書館等の活動支援 (2p)>

○ 図書館フェスティバルは目標値を大きく上回っていますが、職員を派遣せずに展示資料などの貸出しのみで対応したということも、理由の一つということですか。

・ そうです。

○ もう少し市町村数を増やすことができるということでしょうか。

・ 平成 26 年度は、図書館フェスティバルは職員を派遣し、それ以外は展示貸出しで対応するように事業を分けて実施します。

○ 市町村立図書館等への支援についてきめ細かく配慮をいただきありがたいと思います。現在の運営計画に掲げる活動支援は、この先同レベルで維持されていく見込みがあるのかでしょうか。

・ 市町村支援は道立図書館の業務の中で大きな柱です。事業名など変わっていくことはあると思いますが、継続して実施していきますので安心して今後も活用していただければと思います。

○ 地域の公共図書館を支える道立図書館の役割として、手を挙げること自体ができない自治体を取り残されるということのないよう、情報格差を是正していくということが大事ではないかと思います。

- ・ 希望がない市町村の実態は把握しきれいていませんが、最近 5 年間で支援事業を受けていない市町村は各教育局の社会教育指導班に掘り起こしをしてもらい、今年度は 2 町村ほど手が挙がりました。教育局との連携を深めながらニーズを拾っていきたくと考えています。
- 図書館だけではなく、教育委員会、社会教育委員、社会教育主事などの研修の中で、北海道の図書館が今どうなっているか話題にしてもらったり、出かけて行って話したりというようなことも含めて、把握に努めてください。

< (1) 市町村支援_ウ 協力サービスの推進 (4~5p) >

- 協力レファレンスの件数が前年度より減少し目標値を下回ったことについて、目標値を下回ったということマイナスの評価としているということですか。目標値を達成するために、このサービスに対する努力はどういうところに重点を置いて行っているのですか。
- ・ 所蔵調査・所蔵館調査は、個人の方も含めてパソコン等で検索できる環境になっています。それよりも協力レファレンスや協力貸出しを知らない市町村があると思います。道内の図書館（室）の状況は様々で、人が配置されていないところもあり、ほとんど利用がない市町村に対しては個別の働きかけが必要だと思っています。ただ、市町村の中で利用者との関係がないと利用者の掘り起こしができず道立図書館まで届かないので、その点が難しいのかなという気がします。
- 市町村立図書館等では、職員の雇用形態の複雑化や有期限雇用の増加により、スキルの蓄積が困難な状況にあると思いますが、このような市町村立図書館等の状況が、協力レファレンス件数の増減の背景にあると把握しているのですか。
- ・ 実情を十分把握しているということではありませんので、利用調査等について検討したいと思います。
- 社会教育に関して道の役割・道立施設の役割の一番大事なことは、地域格差をなくすということと、専門職員の能力を高めるための研修や取組です。研修については市町村側から研修に派遣するよう構造的な転換について努力をしていると思います。
私は地域にニーズが顕在化していて道立図書館がそれに応えられないというよりは、過疎化や高齢化など地域の中でニーズが伝わるような仕組みが劣化していると思います。地域の抱えている深刻な問題が、目標を達成できないことの背景にあるのではないかと思います。今までのように、こういうサービスがあると周知徹底するだけでは片付かないような問題があり、道立図書館の役割が改めて問われているのではないかと思います。

< (2) 課題解決型サービス_イ 仕事の支援 (6p) >

- レファレンス協同データベースの閲覧は、ビジネスなど特定の分野のものより身近な疑問に関するものの方が多いとありますが、仕事の支援を平成 26 年度の課題解決型サービスの重点テーマにしているのはどうしてですか。

- ・ 図書館は、必要としている本や情報を確実に提供していくということが基本ですが、近年の傾向として地域の課題を解決するというのが図書館の役割の一つとなっています。実際のレファレンスの内容は身近なことが多いですが、当館としても課題解決を事業推進計画の一つのテーマとし、暮らし・仕事・地域の課題にも重点を置いていくということでテーマ設定をしているということです。

○ 仕事の支援というと、いろいろな業種や働き口の紹介のようなイメージがありますが、どういふことをするのですか。

また、どういふ目的の人に利用してもらいたいと考えているのですか。

- ・ 図書館海援隊コーナーに、現在、中小企業庁の情報や法律情報、経済分野の企業の実績報告などを置いています。ご指摘を受けたことを含めて、言葉とイメージが一致できるようにわかりやすい形で、コーナーをリニューアルしていきたいと思ひます。

<(1) 市町村支援_エ 共通事項 (6p) >

○ レファレンス機能の強化について、道立図書館が受けたレファレンスが国立国会図書館の協同データベースに 250 件公開し 8,745 回閲覧したとあるが、何についてこれだけの閲覧があったのですか。

- ・ 国立国会図書館協同データベースは、国立国会図書館のホームページで全国の図書館のレファレンス事例を登録できるようになっています。道立図書館もそれに参加して、平成 25 年度に道立図書館が受けたレファレンスのうち 250 件をそのデータベースに登録しました。その昨年度登録したレファレンス事例が、全国的に 8,745 回閲覧されたということです。

○ 他の図書館の事例と比べることはできるのですか。

- ・ 図書館別の見方もできますし、アクセス件数別の見方もできます。

○ インターネットを見れば出ているような事例はないのかと思ひていました。例えば、このサイトを見ればわかりますというよふな回答はしないのですか。

- ・ 今のレファレンスでは、本だけでなくネット情報についても回答します。

<(3) 道民向けサービス_ア 来館型サービスの充実 (6~7p) >

○ 前年度より来館者が減った理由の一つが、トークショー等のイベントを実施しなかったということなので、今後積極的に行ってほしいと思ひます。それに関連して、道立図書館がここにあつてこのよふサービスを受けられるという便利さや役割を、一般の人にどれだけ知らせるかということがとても大事だと思ひます。児童生徒の受入れについても、もっとたくさんの学校に社会見学や研修旅行の一つとして来てもらえるよふに、積極的にPRしてほしいと思ひます。

- ・ 努力します。

○ ボランティアとの協働について、「ボランティアさんが選ぶおすすめの本」というのは、現に図書館にある本だけでやっているのでしょうか。購入したらいいという本もあるのでしょうか。

・ 昨年度行った取組は、当館が所蔵している中から選んだ本です。ボランティアさんは利用者が通常入れない書庫に入って本の整理などをしてくれるので、道立図書館にはこういう本もあったのかという出会いが、おすすめの 1 冊になるということもあります。普段は出会えない出会いが醍醐味であると、おっしゃるボランティアさんもいらっしやいます。

○ 大学では学生の企画展示の方が、図書館職員が選んだ本よりも利用率が高いのですが、ボランティアさんが選んだ本の利用率は高いのでしょうか。

・ 具体的な数字を出していませんが、並べている様子を見ますと、多く利用されていると思います。利用されている方から見た視点は大切にしたいと思います。

○ 51 名の方は高齢の方が多いのですか。また男女比はどうか。

・ 50 代、60 代が多く、男女比は半々くらいです。

○ ボランティアとの協働という以上は、単にやってくれているのではなく、どういうボランティアをして、どんな成果があったのかということを明示する必要があると思います。それによってボランティアの方も増えるだろうし、ボランティアをする意識も高くなるのではないかと思います。

全体的に数値目標に対して達しなかったというものが多く、マイナスのイメージがあります。私は数値目標に達しないと本当にマイナスなのかよく吟味するべきだと思います。マイナスであっても、その理由が今後の改善の方向性を示しているのであればよいが、後から理由を付けたように受け取られる表現に終始した書き方はよくないと思います。このボランティアとの協働についても、もっと具体的な活動を明示して図書館に協力してくれたといった評価をしてほしいと思います。

<(5) 北方資料サービス_イ レファレンスサービスの充実 (11p)>

○ 北方雑誌の目次情報は、市販されているデータベースにはない雑誌の目次情報を採用していると思いますが、オープンアクセスになっているのですか。

・ そうです。

<(7) 資料整備_ウ 電子書籍に対する取組 (14p)>

○ 道立図書館として商品化されているもののサービスについて考えていますか。

・ 著作権の問題あるいはコンテンツの問題があり、商業出版物の電子書籍の導入については具体的に考えていません。地域資料に関しては、平成 27 年度の機器更新の中でそういう機能を持たせていきたいと考えています。

- 皆さんから積極的に御意見をいただきました。今日の意見を参考にしながら平成 26 年度の事業を進めていただくよう、お願いします。

2 その他

(1) 道立図書館用地の一部売却について

小野田総務企画部長説明

当館に隣接する学校法人酪農学園から、道立図書館の一部敷地をとわの森三愛高等学校の運動用地として取得したい旨の要請がありました。酪農学園では、平成 3 年の高校統合後から現有敷地内に運動施設等に使用する適当な土地がなかったということで、野球やサッカーなどを行う生徒が本校舎から 1.5 km 離れたグラウンドに片道 30 分をかけて移動しなければならず、教育展開に不便をきたしているということです。道立図書館の用地については、昭和 40 年代初めに道の強い要請により酪農学園から取得したといういきさつがあります。道教委としては、利用率の低い用地は売却処分の対象用地とするという新たな行財政改革の取組方針なども踏まえ、道立図書館の前庭以外にこれまで特に活用していない用地が広域的に有効活用されることなどから、酪農学園に売却することとしました。売却する土地の面積は、道路を挟んだ飛び地の前庭を含め、現在敷地面積 64,929 m² の約半分ほどの 34,045 m² です。道立図書館の前庭の利用状況は、例年近隣の幼稚園や小学校などが遠足で訪れてくれることから、用地売却後も利用に不便がないように十分な広さを確保するとともに、より利用しやすいように、前庭の整備やトイレの補修などを行っていかうと考えています。

- これは相手方から購入の希望があったということですか。

- ・ そうです。利用効率の点からここまでということになりました。テニスコートや軽グラウンドのような形にしていくと思います。

- 軽グラウンドなどが造られると、道立図書館は国道 12 号線から見えなくなりますが、看板などはどのように考えているのですか。

- ・ 看板は現在、道路沿いに 3 箇所あります。飛び地にある看板は売却箇所なので撤去する予定ですが、その手前の 12 号線に一番近い所にある看板は国有地に立っていますので、それは表示内容を工夫した形で残します。

- 塀や運動場のネットが建って整備され、図書館の看板もなくなってしまうと、道立図書館がどこにあるのかわからなくなってしまうので、工夫が必要だと思います。

- バスで初めて道立図書館に来たときに、冬で周りが真っ白だったので、どこに道立図書館があるのかわかりませんでした。今現在でも掲示板が足りないように思います。

- 最寄り駅には必ず掲示板があったほうがいいと思います。また、前庭の部分がかなり削られるので整備が必要だと思います。

先程、学校などの積極的な受入れについて話がありましたが、現在の図書館のトイレの数では絶対足りません。児童生徒たちが来たときに対応できるようなトイレをつくっておくとか、臨時の対応ができるような形にしておく、道立図書館がここにあることが地理的に不利であるということにはならないと思います。

・大変貴重な御意見をいただいたので、道民にわかってもらうようにPRなど一所懸命やっていきたいと思っています。

(2) 第56回北海道図書館大会について

小野田総務企画部長説明・・・

資料「第56回（平成26年度）北海道図書館大会開催要項」

(質疑なし)

◇ 閉会挨拶

館長

本日は御多忙の中、御出席いただきありがとうございます。また、道立図書館の運営に対し様々な貴重な御意見をいただき、本当にありがとうございます。

私も前職は行政改革の仕事をしてきたことから、民間の有識者の御意見の会合、政策評価委員会に事務局として何回も出席させていただいたのですが、我々は行政の側からものを見がちだということをいつも言われまして、例えばこの図書館でいえば、図書館の側から見ていると民間の方は思われているのかなと感じていました。我々も利用者の目線に立って図書館を運営していかなければいけないと、改めて考えさせられたところです。

会長を始め各委員の皆様には、今後とも北海道立図書館の運営に対し御指導・御協力をお願いいたしまして、閉会にあたっての挨拶といたします。

本日はどうもありがとうございました。